

京都革新懇

No202 会員ニュース 2009年 5月 20日 発行

日本の平和と民主主義・革新統一をめざす京都の会

http://www.kyoto-kakushkon.com

〒606-8397

京都市左京聖護院川原町4-13 教育会館別館

TEL/FAX共用 075-724-8270

全国革新懇の 3つの共同目標

- ①日本の経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
- ②日本国憲法を生かし、自由と人権、民主主義が発展する日本をめざします。
- ③日米安保条約をなくし、非核・非同盟・中立の平和な日本をめざします。

全国総会・全国交流会は10月24・25日に奈良市で開かれます。

ホームページ

地域・職場革新懇の活動紹介
会議・交流会・講演会などの紹介
ニュース・出版物紹介

http://kyoto-kakushkon.com

憲法9条京都の会は2日、京都市東山区の円山公園野外音楽堂で「今、9条が輝くとき 生かそう憲法守ろう 9条 5・2憲法集会 in京都」を開催。会場からあふれる人が出るなど、4600人を超える府民らが参加しました。

瀬戸内寂聴さん 記念講演 (要旨)

身の危険を感じ初めて外国へ

どうも日本はこのままではおかしいぞと思ったんですね、亡くなる命なら、もうちょっと良い生活がしたい。もっと自由な生活がしたいと思いました。中国でも満州でも何処か外に出ることと思ひましてですね、それには、結婚するのが一番早いと思ひまして、女子大の時に見合いに応じたんです。



うとっておりますけど、どうなるかはまだ分かりません。

たとえ牢屋に入れられても戦争反対貫く

私は少なくとも戦争に反対する主義であります。たとえ捕まって牢屋に入れられても戦争反対を貫こうと思っております。(大きな拍手)

子供達が犠牲に

イラクへも私、単身行ってきました。真実を見てなくてはと思ひまして、薬を買って持って行こうと思ひました。病院に行きましたら、子供達が爆撃に遇って、アメリカは「誤爆した」と言うんですが、間違っただけで撃っておりません。撃つべき所に全部撃っているんです。爆撃に遇った人達は身体中が紫色ではないのです。七色に染まっているんです皮膚が、だから痛みで寝れないんです。ハンモックに宙吊りになっているんです。



新緑の円山公園野外音楽堂に集まった4600人

学徒動員のニュースに涙?

その直ぐ直後に学徒動員がありました。雨の中を学生たちが連れ出されて学徒動員したんです。その写真を私、今から5年前に初めてニュースで見ました。自分の若い日に自分は何と知らない、心得違いをしていたんだ。こんな風に同い年の学生が死ぬことが分かっていて戦地に赴く、雨の日に、北京に行った日の後にあったと思うと、ホントに可哀想で泣けて泣けてたまりませんでした。

中国人の思想を思い知る

「仇に報いるに恩を持って」と書いてあるんです。それを見たとき、こういう国とたたかって負けて当たり前だと思つてね、ヘナヘナとそこに座り込んでしまいました。負けた日本に酷いことをするなと言う命令なんですね。そういう経験もしました。

良い戦争なんかない

戦争と言うのは全て人殺しですから、良くないんですね。出家を致しまして、釈迦の教えの一番根本は、「殺すな殺させるな殺させられるなかれ」長い戦争のときにお坊さんが誰も立ち上がらなかった。それで殺されたり殺させたりしたわけです。それを今、仏教会は非常に反省しております。今度は全部が立ち上がって戦争に反対しよ

みんなが力を寄せ集め

みんなの力を合わせて、戦争反対しますという意識を作ってやって行きたいものだと思います。これからも皆さんが今日集まって下さったのもそういう思いを持っている方が集まって下さっているのですから、どうかその気持ちを大切にして世界の平和を守っていけるよう努力して頂きたい。仲良くして頂きたいと思ひます。(割れる様な大きな拍手)

益川 敏英さんの スピーチの概要

- ・なぜ、憲法を変ようとするのか、交戦権を得たいからです。
- ・いろいろな理屈よりも、わたしは戦争が嫌いです。



件を思い起こすでしょうが、死に至る例は全国で年間100件程度。全国の児童相談所が受理する年間4万件を超える虐待通告の多くは、生活の困難や社会の暮らしにくさ、人々のつながりの希薄さなどが原因となって、「虐待のあたる不適切な関わりをしてしまった」という例がほとんどです。とりわけ、その背景には、貧困問題が横たわっていることを痛感します。

働く一人親家庭に対して、日本の税や労働など社会制度が極めて冷たいことは、いろいろな資料や研究などでも指摘されています。母子家庭で、お母さんが昼夜のダブルワークをせざるを得ない人が少なくありません。

「夜間子どもが放置されている」「いつも子どもがコンビニ弁当を買っている」「昼食はいつも菓子パン一個だけ」などの事例にあい、親御さんにお目にかかる時、「夜も働かなければ生きていけない。これがだめだったら、どうやって子育てをしたらよいのか?」と抗議されることもあります。

解決の基本は、大企業のポロ儲けを吐き出させ、すべての労働者の賃金、労働条件を改善することだと思いますが、社会保障の分野でも、もう少し保育所が、学童保育が、公営住宅が... 量・質ともに、充実し、利用しやすい場所になればなあと思います。



フォーラム2部 【座談会】

「大人にいま何ができるか/私たちの提案」

<コーディネーター 池添素さん らく相談室>

「『子どもの権利手帳』の紹介」

吉田雄大 弁護士

生活保護や医療助成、奨学金などの制度や相談先を紹介した『子ども権利手帳』を自主制作する案を提案しています。

「今日の子どもの貧困をどう見るか」

高橋瞬作 生活と健康を守る会事務局長

貧困な家庭で育て子どもたちが成長して大人になった時に、再び、貧困に陥るといふ貧困の連鎖を断ち切るためにも、せめて、教育を受ける権利、医療を受ける権利からでも全額無償にすることが、急がれる課題であると提案。

「歴史的な視点で『子どもの貧困』を考える」

鈴木 勉 佛教大学教授

「子どもの貧困」克服のためには、イギリスの貧困の調査からもわかるように、大人社会の労働環境の改善、とりわけ、非正規労働をなくすこと。失業しても、不安なく、就労活動が出来る生活保障などが不可欠であることを訴えました。

「私たちに何ができるのか」

梶川 憲 京都総評事務局長

今まで、子どもに関わってきて職場や個人が、手の届く範囲内でかわりの持てる人たちとつながりながら貧困解決のために努力してきています。縦割りの対応でなく、貧困の中の子どもたちを真ん中において、関係者が横のネットワークをつくりワンストップで問題解決できるような対応が求められてきています。その為に、メーリングリストと地域での運動づくりを呼びかけます。

フロアー発言では

・ 母子家庭の10ヶ月の赤ちゃんを預かった。栄養状態も悪く、赤ちゃんも表情や感情も乏しくなっていました。お母さんが体調悪く、お兄ちゃんが、保育所の送り迎えをした日がありました。心配で、様子を見にいくと、電気もつけずに寝込んでいました。幼い命を守るために、必要な社会資源の活用を一緒に考えています。(保育師)

・ 学歴社会の中で教育格差が貧困の連鎖を生み出している。人民塾などのとりくみが必要ではないか?(大平元総評議長)

・ 税の再分配で、母子家庭がさらに貧困が増している国は日本だけ。労働組合としても非正規雇用をなくすためにがんばっていききたい。(岩橋総評議長)

・ 地域で小さな単位で子どもを守るネットワークづくりをしていきたい。(子どもネット)

・ 醍醐地域で、子育て懇談会を行なっている。中学の制服で夏冬一斉に購入すると3万円必要。リサイクルなどの活用を呼びかけている。また、学業支援の取り組みなども行っている。(教員)



「フォーラム 1部では、全体で8名の方の発言がありましたが、紙面の関係で4名の発言を紹介させて頂きました。」



フォーラム 「子どもの貧困」ダイジェスト

4月29日(水・休)に子ども文化会館(エンゼルハウス)ホールにて、「フォーラム 子どもの貧困 私たちの提案」が開催されました。

このフォーラムは、京教組、京都総評、生活と健康を守る会、らく相談室、民主青年同盟、市職労民生支部、社保協、医師、弁護士、大学教授、児童相談所の相談員、婦人相談所の相談員などの団体や個人が集まり準備を進めてきました。当日のフォーラムの様子を紹介します。



フォーラム1部

「子どもたちに何が起きているか/私の経験から」

母子加算削減とたたかう親の立場から

辰井絹恵(山科生活と健康を守る会)

約6年前に乳がんが見つかり手術、退院してから主人と折り合いが悪くなって離婚。息子と2人暮らしたが、健康上仕事も出来ず、生活と健康を守る会に相談して生活保護を受給することになりました。

息子は、中学3年生になってから週2回勉強を教えて下さる方がいて、今は定時制高校に楽しく通っています。

生活保護の母子加算が段階的に削減され今年の4月から全廃になりました。育ち盛りの息子に「質より量」という食事に影響してきます。

高校は私服ですが、入学時に買ったズボン2本を穴が開くほど、はき続けています。靴も磨り減るほど使っていますし、靴下も左右別々でも「ズボンで見えへんから」と履いて行ってくれます。冬のジャンパーは中学時代からの物で、口には出さないけど、きっと私に気を遣っているんだなあと思えます。

これでは憲法25条の健康で文化的な生活を営む権利がおかされてしまっていると、母子加算を元に戻してほしいと裁判を起こして、たたかっています。

小学校で見る子どもたちは...

「子どもの貧困」と就学援助制度について

深澤 司(小学校教員)

「子どものいる世帯の3割がワーキングプアである」。5年前、私の勤務校は就学援助の受給率は25%、100

名に達していたが、現在の受給率は49%、190名と、ほぼ倍加、急増しています。3月末までに、200名近い就学援助受給申請に目を通した学校長は、申請された家庭の所得の低さに、「正直驚いた」と言います。私の担当する学級は就学援助の受給率が7割を超えています。

冬休みの宿題を提出しなかったA君を放課後に残し話を聞くと「うちはストーブもないから寒い。ずっとふとんにくるまって冬休みを過ごした」とのこと。給食が1日の主たる栄養源となっているという絶対的貧困の中で生きているケースは確実に増えています。

子どもの貧困の実態は外からは見えにくく、ガスや電話がとめられた家庭の子どもが、つぎはぎだらけの服で登校しているわけではありません。親の「わが子にみじめな思いはさせたくない」という強い願いと必死のがんばりで、見えにくくなっているという側面もあります。

憲法26条が定めた教育費無償の原則の具体化に就学援助制度拡充を太くつなぐ共同の運動が重要になっています。

医療の現場で子どもたちは.....

尾崎 望(小児科医)

京都でも、親の経済的な貧困が理由で子どもたちが医療を受けられない実態があります。親御さんが国保料を滞納していたために、医療保険証が取り上げられて、医者にかかれなかった子どもたちがいました。

私たちの運動で、今年の4月から、中学生以下の子どもたち全員に医療保険証が手渡されることになりました。大きな成果です。

しかし、いくら短期保険証がもらえても、窓口での負担が払えなくて受診を手控える場合もあります。パートなど日給で働いている場合など、親が休めずに、発熱したまま子どもを登校させて、結局、医者に診てもらえないことがあります。子どもが病気の時、寄り添って看病してやりたいと思っても、生活費をかせがなければならぬために、子どもの病気がうとましくなると話すお母さんもいます。

北海道の小児科の医師から報告されたものですが、給食が主な栄養源ということで、夏休みに入ると、栄養失調で体重が減少するというのです。夏休み明けに、学校入学前より、体重が減っていたケースもあったそうです。

窓口での自己負担の問題、非正規雇用で代表して見られる親の労働環境や収入の問題などを解決しないと、すべての子どもたちに医療を保障することにはなりません。

児童相談から見えるもの...

せんだとみひさ(児童相談所児童福祉司)

「虐待」というと、ひどい折檻をして大怪我をさせたり、殺してしまったという、とんでもない親の惨い事

地域革新懇からの報告

山科のすべての地域に9条の会を 9条・山科トレイル 開かれる 京都 革新・山科の会

山科の9条の会ができて5年目をむかえ、憲法を変える国民投票法が来年に施行されます。憲法9条を守る運動を強めるためには9条の会をすべての地域に確立、出来ている地域の運動をさらに活発にと、山科南北2カ所で集会を開き山科トレイル(山科にグルット9条の輪を)が始まりました。

4月4日(土)の午後に北部地域の其枝幼稚園で100名の参加で、園長で京都復興教会の牧師清水潔さんから当教会の前身朱雀教会は弾圧により解散し、牧師の竹入高氏は逮捕拷問され殉教された戦前の宗教弾圧のお話をされ、9条の重みを感じました。そのあと、鉄道写真家佐竹保雄氏から自身の戦時中の体験と山科の鉄道の話や中西清一さんのクラシックギターの演奏があり、雨の降るなか多くの参加者が感動されました。



4月19日(日)の夜、南部地域では、京都東部文化会館の創造活動室に80名の参加で行われました。高谷光雄氏(精華大教授)染色家(9条に思いを込めたあいさつ)、吉潤さんのギター演奏、佐竹さんの鉄道の話のあと、くつろぎのコーヒータ임もあり、後半は梅若朝作寿さんの津軽三味線・新婦人のアメリカベトナム兵のネルソンさんの反戦の詩の朗読がありました。北村賀善(陶芸家)父親は東山清水で谷口善太郎(作家・衆議院議員)と作品づくりや活動をされたことや、戦後、田畑シゲシ(2区候補者)さんらの交流のなか平和でこそ暮らしや伝統が守れることを学び小泉の国壊しに憤りを感じ訴えられました。

会場から学区9条のはなしや保育園の9条の会では願いをこめてタペストリーにして参加、会場には鉄道写真・平和の願いを込めた清水焼の器・絵手紙展示など多彩な取り組みでした。さいごに南北の集会でニットデザイナーの石井麻子さんより山科トレイルへの思いと5・2京都憲法集会 瀬戸内寂聴・益川敏英の訴えをされました。

革新・山科の会は学区9条の会を確立するためには会のはたす役割は重要だとこの2つの集会に取り組みこれからも憲法改悪をさせない運動を強めたい。

革新・山科の会 事務局長 野原 孝喜)

3・27品川講演冊子を 京都革新懇が発行しました。

内容は品川正治氏の京都旧制三高時代の思い出、そして戦争体験、憲法九条へとつながる講演内容を32ページ、講演参加者からの感想4ページ程度を掲載しています。

各地域・職場革新懇等での普及・活用をお願いします。1部 200円です。

経済同友会終身幹事 全国革新懇代表世話人

品川正治が京都で語った 旧制三高時代・戦争体験

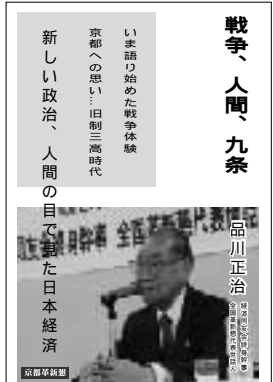
人に話せる戦争でない

暴虐な戦争でもございました。人に話せるような戦争ではないという気持ちは、物凄く強く私を縛り付けておりました。

戦争体験なんて語れない

そんな戦線から「あなたはどうして助かったんですか?」という質問が出ると、あとは、一切喋れなくなるんです。そのトラウマを60数年抱えてみなさん生きてこられたんです。

.....それで80歳になる前に、何とか話さなくてはならないという気持ち、義務感にかられるようなことになりました。



京都革新懇発行
ブックレット
販売中 200円

40回目を迎える 御所南地域のピースウォーク

2005年4月から、毎月9のつくいずれかの日の昼休みに、御所南地域で、「平和と暮らしをまもるピースウォーク」を取り組んで、5月19日で40回目を迎えます。毎回40名前後の参加者で、最高参加者数は80名ですが、これまで以上に5月19日には、たくさんの人に参加してもらえようようにしようと、実行委員会で、団体・個人に呼びかけています。是非、ご参加下さい。(京都第一法律事務所・浅井)

